観光立国の実現は地方（地域）から

観光が世の中を明るくする 知恵出して、魅力の発信を

二階俊博・自民党幹事長に聞く

国の成長戦略の柱といわれる観光。官民によるさまざまな施策が展開され、訪日外国人旅行者数や旅行による消費額の拡大など、着実に成果を上げてきている。観光立国の推進を30年来提唱し、今も全国旅行業協会の会長として業界をけん引する二階俊博・自民党幹事長に「真の観光立国実現への道」を聞いた。（聞き手＝本社編集長・森田淳）

国挙げて観光立国推進

地方を元気にする政策が必要

――「いざなぎ景気」を超える戦後2番目に長い景気回復局面を迎えている。2020年の東京オリンピック開催まで景気の拡大が期待されるが、二階幹事長の見通しは。

二階　安倍政権が外交において日本の存在感を高めるとともに、経済においてもアベノミクスにより行き過ぎた円高や株安が是正され、各種の経済指標も上向いており、2012年12月から景気の回復局面が持続している。日本経済の立て直しに成功しつつあると思う。

経済運営を最重要課題として、デフレ脱出のための政策を一層力強く展開し、国民の誰もが景気の回復を実感できるよう、また一人ひとりが能力を発揮できる「1億総活躍」社会をつくり上げていくことが重要だ。

同時に、全国各地にある旅館・ホテルなど、宿泊産業の皆さんが多くのお客さまを迎えられるよう、地方を元気にする政策が必要だ。

これらの政策で2020年の東京オリンピックの成功、そしてその後の景気の拡大と国民生活の安定的発展につなげていきたいと思う。

――外国人観光客が急増しているが、宿泊客が都市部に集中し、地方旅館の客室稼働率は決して高くない。今の国内観光の状況をどう思われるか。

二階　インバウンド（訪日外国人旅行者数）の伸びが順調だ。平成29年は既に、11月に2400万人の大台を超えた。

平成28年のわが国全体の宿泊旅行を見ると、日本人の宿泊者数が対前年で3・5％減少したのに対し、外国人の宿泊者数は5・8％の増加となった。

外国人の宿泊者数の伸びは、東京をはじめとする首都圏、大阪・京都・兵庫の近畿圏、愛知県の三大都市圏が3・4％の増で、地方部は9・5％の増となっており、地方部の伸びが三大都市圏を上回った。

地方の旅館の稼働率が低い水準であることはその通りだが、北海道や沖縄をはじめ、地方では少しずつではあるが増加の傾向にある。

世界遺産登録を契機に、そのイメージを活用して誘客に成果を上げているところが多くある。

例えば和歌山、奈良、三重県の「紀伊山地の霊場と参詣道」、栃木県の「日光の社寺」などだ。

もちろん、世界遺産だけでなく、日本遺産、世界農業遺産、日本農業遺産など、日本には観光資源がたくさんある。

当然のことだが、事業者が単独でがんばるには限界がある。行政を含めた地元の関係者や業界関係者の統一的な取り組みが必要だと思う。一つの良い例が熱海（静岡県）だ。

また由布院（大分県）のように、自然景観や生活環境の充実など、地域の独自性を発揮しているところもある。地域の個性ある魅力の発信が重要だ。

宿泊産業関係者の皆さんが地域の観光資源の魅力を再発見して、地元自治体、観光事業者、旅行業者などと一体となって国内外に訴える必要がある。

特に最近は、日本各地の観光情報がSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などで外国に伝わっていると聞く。われわれ日本人が知らないような地方の面白さ、魅力が外国人に伝わっているという。最新の情報伝達手段を活用することも大事だ。

わが国で少子高齢化が進む中で、高齢者や障がいのある方々が安心して宿泊施設を利用できるよう、施設のバリアフリーなものか。住民や観光客の安心、安全のために、災害から生命と財産を守る国の政策も必要。真の観光立国を実現するために、克服すべき課題と、その解決策もうかがいたい。

二階　現在、国を挙げて観光立国を推進しているところで、国内観光の振興と国際交流の発展のため、私自身も自民党の幹事長として、また民間団体である全国旅行業協会の会長として力を入れて活動しているところだ。

観光立国推進に向けて、日本各地で安心して旅行を楽しんでもらうためには、災害から人々を守るための施策が必要だ。

私の故郷である和歌山県に古くから伝わる「稲むらの火」という逸話がある。和歌山県広川村の実業家、濱口梧陵（はまぐちごりょう）が旧暦の安政元年（1854年）11月5日、安政の南海地震が起きた時に、大切な稲わらに火を点けて村人を高台に避難させて大津波から皆の命を救ったという話だ。その後も4年の年月をかけて村に堤防を築き、結果、昭和南海地震を含む何度となく襲った地震による津波から地域を守り続けた。

2015年12月に開かれた国連総会において、日本をはじめ世界142カ国が共同提案し、全会一致でこの11月5日を「世界津波の日」にする決議案が採択された。津波から尊い命を守るため、世界中で津波防災の知識を深め、連帯して対峙する必要がある。

この11月には沖縄県で「世界津波の日2017高校生島サミットin沖縄」が開催され、世界25カ国の150人と国内の102人の高校生が参加し、津波防災の議論を通して日本の津波の歴史や防災、減災の取り組みを学んだ。

また仙台市においても「国連世界防災フォーラム（防災ダボス会議）」が開催されるなど、活発な活動が展開されている。

東日本大震災で大きな影響を受けた東北地方、2016年の地震で大きな被害を受けた熊本県、大分県など九州地方をはじめ、全国各地で国の古くなったインフラを整備し、災害に強い国づくりを行う「国土強靭化」が進められている。

国土強靭化により、日本および外国の旅行者の皆さんが安心して旅行をできる。それにより観光をより一層推進できるのではないか。

――2018年は日中平和友好条約締結40周年。一層の交流促進が見込まれる。ただ、現状は日本から中国への客数が中国から日本への客数の半分以下だ。

二階　私は、観光はのこぎりを引くように行わなければいけないと思う。押すだけでも引くだけでも駄目。押したり引いたりしなければ木は切れないのだ。

国際観光を推進するには、こちらからも出掛けていき、あちらからも来ていただく。その繰り返しが必要で、来ていただくだけでは交流は長続きしないだろう。

――2015年に観光業界3千人の訪問団を中国に送った。

二階　中国に限らず、関係者の協力を得て、同様のことが進んでいけばいいと思う。

――弊紙読者の多くを占める全国の旅館・ホテル経営者に激励とメッセージを。

二階　観光は文化であり、国と国、地域と地域、人と人をつなぐ平和産業だ。

民間大使として私たち観光業界が先頭に立って、隣国の中国、韓国、アジア諸国をはじめ、さまざまな国や地域と双方向の交流をすることが大事だ。

また、わが国は自然、歴史、文化、食と、全国津々浦々に良いところがある。これらの地元の良さや価値を理解してもらい、関心を高めてもらう必要がある。

観光が明るくなれば、世の中は必ず明るくなる。良いイメージをもって、皆さんで知恵を出し合って切磋琢磨することが大事であり、そうしたことでわれわれの魅力が広く伝わっていくのではないだろうか。

行政と観光に関わる宿泊、旅行、運輸交通などの関係者が、これまで培ってきた長年の経験と英知を結集して、力を発揮して、明るい未来の実現と観光産業の発展のためにがんばろうではありませんか。

自民党幹事長室で積田朋子本社社長と

週刊 観光経済新聞
宿泊・旅行業・運輸・自治体（観光全般）

日本専門新聞協会加盟紙
国土交通省交通運輸記者会所属
発行所
東京都台東区池之端２－７－17
井門池之端ビル　〒110-0008
株式会社観光経済新聞社
電話　03(3827)9800(代)
FAX　03(3827)9730

北海道支局
札幌市中央区北６条西27丁目
1-3-705　〒064-0826
電話　011(624)5030
FAX　011(621)2530

東北支局
山形市緑町４－14－57
〒990-0041
電話　023(687)0702
FAX　023(687)0665

西日本支局
大阪市北区梅田1丁目11番4－1000号
大阪駅前第4ビル　〒530-0001
電話　06(6131)6914
FAX　06(7502)5850

購読料年間 11,340円（税・送料込）
（税抜10,500円）

振替口座　00140-2-86888番
e-mail info@kankokeizai.com

観光経済新聞 電子版
PC版
スマートフォン版（iPhone・iPad、Android）
2010年1月1日号以降のバックナンバー・過去記事が全て読めます。

新年号第１部

◎他面の主な記事

☆3～4面　観光庁、日本政府観光局、日本観光振興協会、日本旅行業協会のトップ座談会
☆8～11面　旅行業大手4社トップ座談会
☆18～19面　旅館経営者座談会
☆22～23面　外資OTA鼎談

ホテル・旅館・観光業界に特化したコンサルティング
400件を超える豊富な実績
全国どこでも行きます
難しい経営課題を解決します
alfa
株式会社アルファコンサルティング
https://alfa-consulting.co.jp

傳（でん）　進化するトーキョー日本料理
長谷川在佑（ざいゆう）（傳）著　海外からの注目度の高さで知られる日本料理店、『傳』。外国人客や日本料理ビギナーの「食べたい、知りたい」という素朴な興味に応え、楽しい体験を提供する。その料理、コース戦略、表現の工夫は訪日外国人を迎える料理店や旅館にも大きなヒントに。　定価3,024円（税込）
※本書は本文とレシピすべて日本語・英語を併記しています。

肉料理　絶対に失敗しない「焼き方」「煮込み方」55
柴田書店編　牛、仔羊、豚、鳩、鶏などを題材に、絶対に失敗しない火入れの秘訣と仕立てのコツを、仏・伊・中・日のトップシェフ31人が惜しげもなく公開。日々厨房で直面する肉料理の悩みと疑問の解決法を、豊富なプロセス写真とともに紹介する。　定価3,996円（税込）

割烹あらかると　お値打ち和食の一品料理
柴田書店編　激戦の東京で連日満席の繁盛割烹10店の「一品料理」と「店づくり」を取材し、243品のレシピを紹介。併せて少人数で切り盛りするための店づくりとメニュー構成、日本酒の売り方など、繁盛のしくみをわかりやすく解説する。店舗平面図とメニュー表も必見。　定価3,456円（税込）

月刊 ホテル旅館
［提携誌］Cornell Hospitality Quarterly
●毎月22日発売
●A4変型判・約160頁
●定価2,160円（税込）
お求めはお近くの書店、または弊社営業部、ホームページへ　柴田書店
問合せ・注文窓口＝TEL 03-5816-8282　ホームページ＝http://www.shibatashoten.co.jp
変革の時代を生き抜くための
新しい経営に向けて、活きた情報を発信する
宿泊産業の専門誌

2018年1月号（新年号）好評発売中！
【特集】成長産業である宿泊業界を代表する経営者たちが新年を展望
経営者114人 年頭所感
「2018年展望～宿泊業界、自社の未来と現状課題」
【特別企画❶】宿泊業界団体・新春トップインタビュー〈前編〉
志村康洋氏（一般社団法人 日本ホテル協会会長）
【特別企画❷】異業種との競演!!　客室設計の新発想
セトレ ハイランドヴィラ姫路（兵庫県姫路市）
【特別企画❸】宿泊業界をサポートする有力企業トップ年頭インタビュー
今月の注目ホテル・旅館　奥日田温泉 うめひびき（大分県日田市）
箱根・芦ノ湖 はなをり（神奈川県・芦ノ湖温泉）
旅館の投資研究　ホテル翔峰（長野県・美ヶ原温泉）
■海外レポート
21世紀のラグジュアリーホテルとして
モダンに生まれ変わった歴史の館
オテル・ド・クリヨン、ア・ローズウッドホテル（パリ）
■MONTHLY TOPICS
オリジナル商品開発を目的に初開催
2017 オークラ ニッコー ホテルズ ベストリーコンテスト
■好評連載
歴史を彩ったホテル、その物語　富田昭次
Oh! 宿を見に行く　山口芳生
「トレーラーハウス宿泊村『ホテル・エルファロ』」
考える旅人
「亡父山口祐司とコーネル・クォータリー」山口由美
ホテル旅館の用語解説　岡本伸之
コーネル・ホスピタリティ・クォータリー誌から　原 忠之
今月の小規模店/今月のホテルニュース・旅館ニュース

2018年2月号（1月22日発売）予告
【特集】国内外の大手グループが満を持して最新ブランドを展開
「新ブランドホテル」注目事例を解剖
ザ セレスティンホテルズ／モクシー
新ホテルブランド名鑑
【特別企画❶】宿泊業界団体・新春トップインタビュー〈中編〉
針谷 了氏（一般社団法人 日本旅館協会会長）
【特別企画❷】「日本クラシックホテルの会」設立記念インタビュー
日本クラシックホテルの会会長濱田賢治氏
（ホテル、ニューグランド 代表取締役社長）
■海外レポート　ホテル7132（スイス・ヴァルス）
■旅館の投資研究　中の坊瑞苑（兵庫県・有馬温泉）